

## [010]ポリモルフィア表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7347442>

---

出版情報：ポリモルフィア. 10, 2025-03-21. Office for the Promotion of Gender Equality, Kyushu University  
バージョン：  
権利関係：



## 巻頭言

園田佳巨

九州大学理事・副学長（DEI 担当）

男女共同参画推進室 室長



2016年（平成28年）3月に創刊された『ポリモルフィア』は、今回で記念すべき第10号の発行となります。これまで本誌では、男女共同参画に関する学内活動の紹介に加え、ダイバーシティや女性のキャリア形成など様々な課題を広く読者と共有するため、学外の方からも幅広く寄稿いただき、学術的な研究発表の場としての誌面作りに努めてまいりました。

今回の第10号には2つの特集記事があります。特集1では、2024年（令和6年）12月に本学が開催したダイバーシティ推進トップセミナーにお招きした白波瀬佐和子先生（国際連合大学上級副学長）のご講演内容を掲載しています。白波瀬先生には国連大学の沿革とSDGsの目標5に掲げられたジェンダーに関する世界の状況を概説いただきましたが、その中で特に「ジェンダーという格差・不平等はどこの国も持っている」というお言葉は、先生ならではのご指摘であり、我々は日本社会特有の課題に向き合い、継続的な改善の努力が必要であることを再認識させていただきました。

特集2では、創刊時に携わられた4名の方々にこれまでの10年を振り返って「創刊時の思い出と今後に向けての期待」というテーマでご寄稿いただきました。2014年当時、九州大学は複数の女性研究者支援事業に採択されており、育児支援をはじめとする環境整備が進んでいたことが記載されています。また、本誌において他大学・機関の取り組みやユニークな学術的視点からの論説が数多く掲載され、多様性を尊重する研究環境の醸成にポリモルフィアが寄与してきたことが伺えます。しかしながら、10年の歳月を経てもSTEM分野への女子学生の進学率などはあまり改善されておらず、国内に根強く残る就学バイアス解消のため、中高生へのさらなる啓発活動が必要であることを痛感します。

「世界の窓から」のコーナーでは、奥村先生からSENTAN-Qの研修で約2ヵ月滞在されたカナダのトロント大学のダイバーシティ環境に関する報告をいただいております。滞在先は、理系のBioinformatics/Computational Biology分野の研究室でありながら、男女比がほぼ1：1であり、女性が

リーダーシップを発揮する場面が多いことが紹介されており、本学とは大きく異なることが感じられません。九州大学が世界に開かれた研究拠点となるためには、より一層の女性の活躍支援を行わなければなりません。

また、九大フラッシュでは、今年度の各種事業（SENTAN-Q、QURIESプログラム、伊藤早苗賞、オープンカフェ等）の活動内容が紹介されており、本学の男女共同参画事業の概要を把握することができます。投稿論文・寄稿記事のコーナーでは、研究ノートとして、働く母親のオンラインコミュニティや男女活躍推進法後の男女賃金格差といった働く女性の環境改善に関する話題に加え、科学講演における女子中高生の理系関心度という女子学生の進路選択に関する資料が提供されています。さらに、中学生の学力とジェンダーに関する全国調査データの紹介、東京大学におけるジェンダー・エクイティ研修報告、ブランクを経た女性のキャリア形成に関するエッセイなど、豊富な内容が掲載されています。

本誌が、九州大学だけでなく学外の方々にも情報発信・共有の場として活用され、我が国のポリモルフィア（多様性）促進に貢献できることを祈念しております。